

# 1. 事業の概要

## 1-1 サミット開催までの道程

全国コットンサミット開催までの状況をまとめたい。

図表1 岸和田における綿花栽培と関連イベントの年表

		市 民	行 政	企 業	取組み事項	取組みの内容
1995 年		○	—	—	河内木綿伝習所見学会実施	「不況打開・地域産業の振興をめざす泉州実行委員会」での議論がきっかけ
1996 年	4月	○	—	—	「きしわたの会」結成	約40名の参加
	5月	○	—	—	初の種まき	種は(財)日本綿業振興会から購入
	10月	○	—	—	第1回 コットンカーニバル	神於山土地改良区にて開催
2000 年		○	—	—	栽培綿から紡糸 大正紡績(株)へ依頼	
	10月	○	—	—	第5回 コットンカーニバル	神於山土地改良区にて開催
2001 年		○	—	—	市内小学校3箇所にて授業実施	「綿を生かした授業」をしてもらう
2002 年	7月	○	○	—	第7回 コットンカーニバル	2002年度岸和田市の「緊急地域雇用創出特別基金事業」にて実施
2003 年	7月	○	○	—	第8回 コットンカーニバル	
2004 年	4月	○	—	○	「木綿物語プロジェクト」始動	
	5月	○	○	○	第1回 木綿物語シンポジウム	松田正夫(大阪繊維リソースセンター)がコーディネート。大正紡績、辰巳織布、糸井テキスタイルの報告。富澤修身(大阪府立大学教授)の講演。
		—	—	○	「夢つむぎ会」発足	
2005 年	5月	—	○	○	第2回 木綿物語シンポジウム	堀内秀雄(和歌山大学助教授)がコーディネート。マハール、林キルティング、中澤タオルの報告。
	8月	—	—	○	電動綿繰り機「くりくりワン」(株野村製作所)完成	
	11月	○	○	○	第1回 きしわだ木綿物語フェア	綿くり、糸つむぎ実演・体験、オリジナル

						製品展示販売など
2006年	5月	—	○	○	第3回 木綿物語シンポジウム	堀内秀雄（和歌山大学助教授）がコーディネート。西脇コットン銀行、高島綿ズクラブ、松下隆（大阪府立産業開発研究所）の報告。
	11月	○	○	○	第2回 きしわだ木綿物語フェア	第1回と展示方法は同様
2007年	11月	○	○	○	第3回 きしわだ木綿物語フェア	第1回と展示方法は同様
2008年	11月	○	○	○	第4回 きしわだ木綿物語フェア	同上、出展企業は一部変わる
2009年	11月	○	○	○	第5回 きしわだ木綿物語フェア	同上、出展企業は一部変わる
		—	—	○	通信販売開始	
2010年	11月	○	○	○	第6回 きしわだ木綿物語フェア	
2011年	6月	○	○	○	2011 第1回 全国コットンサミットin岸和田	綿花栽培から日本ものづくりを考える 東北での綿花植え付けを一部報告
	11月	○	○	○	第7回 きしわだ木綿物語フェア	同上、出展企業は一部変わる

注：掲載人物の肩書は当時のものによる

出所：松下隆（2010）「綿花栽培と地域循環のものづくり」『産業能率』，社団法人大阪能率協会，pp.4-7 を元に一部追加

先に示した図表1のように、これまで岸和田市域では「きしわたの会」が市民団体として岸和田市の協力も得ながら綿花栽培を行ってきた。加えて、糸つむぎや簡単な織物制作などの活動を行うとともに、栽培した綿花を大正紡績(株)の協力を得て紡糸してもらい、その糸で地域の繊維業者等に依頼して製品づくりを進める活動にも取り組んできた。

その活動をさらに広げるため、2004年に「きしわだ木綿物語プロジェクト」が発足。広く市民に綿花栽培を訴え、その綿を活用して繊維関連の業者グループ「夢つむぎ会」（会長：辰巳美績）が各種の製品づくりを進める取り組みが始まった（これらの活動の先導役は、当時岸和田市職員でもあった木村元廣である）。

「きしわたの会」や「夢つむぎ会」の活動は必ずしも順調に進んでいないが、毎年「きしわだ木綿物語フェア」を開催するなど、現在も活動を継続している。

2009年に織研新聞が全国各地で綿花栽培が盛んになっていることを報じたことに触発され、その年の秋、岸和田の綿花畑において、大正紡績の近藤と辰巳織布の辰巳会長が意気投合し、「いっぺん全国の綿花栽培してる人で集まろうやないか！！」ということになった。

## 1-2 サミット開催のための準備委員会結成

先に述べたように、夢つむぎ会がサミットの企画を行い、それを受けて「全国コットンサミット実行委員会」および、「準備委員会」が発足した。

### 準備委員会 委員名簿

(※構成メンバーの肩書は、2011年5月現在のもの)

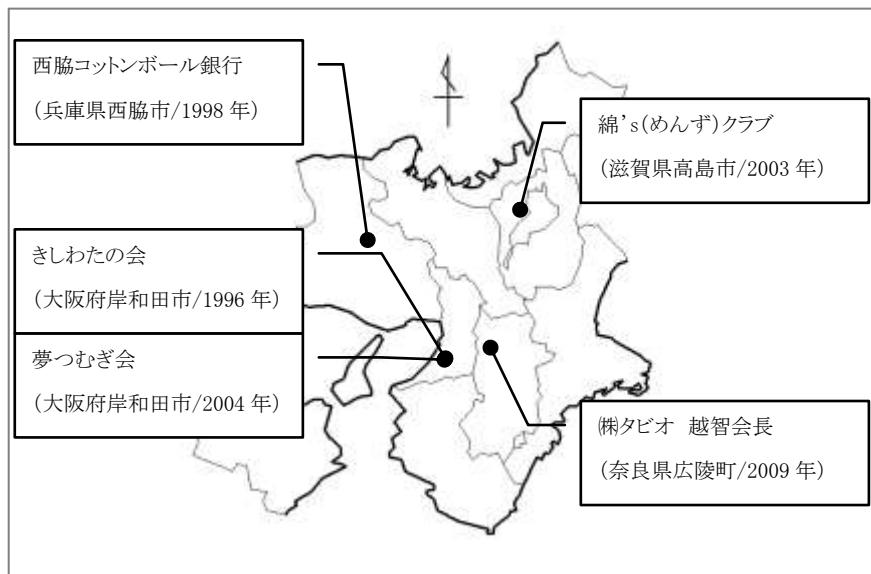
会長	辰巳美績	: 木綿物語プロジェクト「夢つむぎ会」会長
副会長	木下宗計	: 木下織物工場 代表
事務局長	轟 俊一	: (株)大阪繊維リソースセンター 部長
事務局次長	木村元廣	: 「きしわたの会」事務局長
	近藤健一	: 大正紡績(株) 取締役営業本部長
	浅田大輔	: 大正紡績(株) 営業部
	篠原由起	: 大正紡績(株) 営業部
	菅原貞光	: (株)大阪繊維リソースセンター 常務取締役
	小木曾由季	: 木綿物語プロジェクト「夢つむぎ会」事務局
	小川彰晴	: 岸和田商工会議所中小企業相談所 経営指導員
	松下 隆	: 大阪産業経済リサーチセンター 主任研究員

このほかにも、不定期に出席された方多数だが、ここでは割愛させていただいた。

### 1-3 機運の高まり

2009年11月に織研新聞社は、全国で綿花栽培が盛んになっていることを報じた。その記事を捉えて、松下(2010)は「自分たちで綿花を栽培、出来れば商品化しようという動きが広がってきた」として、大阪府では岸和田地域のきしわたの会、奈良県では(株)タビオ奈良 越智会長の動きなどが報じられている。これら綿花栽培の動きは全国で10か所以上確認されている(図表2)とした。

図表2 主要な綿花栽培地



出所:織研新聞社の2009年11月30日の記事を基に近畿地域の実績を抜粋し、一部加筆。  
全ての活動を網羅していない。

この時期には、大正紡績の近藤健一が主要な繊維産地などで、綿花栽培を事業者とともに行いはじめ、その活動はメディアを通じて盛んに報じられた。

各地において綿花栽培が盛んになるとともに、綿花を綿繰する機械(綿繰機, JIN<sup>1)</sup>)や、綿実から油を採る企業のことたびたび報じられた。この動きに呼応するかのように、綿花栽培と事業者の活動は盛り上がりを見せる。

<sup>1</sup> JIN: 綿花を種と繊維に分離する機械。ローラー・ジンとソー・ジンがある。ローラー・ジンは、2本のローラーの間で綿繰りするもので、繊維質にやさしい。ソー・ジンは刃が回るため、繊維が細かく裁断され、ローラーに比べると効率はいいが、繊維質は劣る。

## 1-4 サミット実現に向けて

夢つむぎ会において、綿花栽培を通じて得られる地域活性化や綿花への思いについて、情報交換をすべく会合を数度もった。しかしながら、開催には前途多難なことも多く、開催に至るには地元自治体からの協力をとりつけることができるのか、本当に全国から関係者が集うのか、開催費用は捻出できるのかなど課題が山積した。

会議を開催しながらこれら課題解決に努めたが、一つのブレークスルーは、全国各地の方に対する「綿花栽培及び国産木綿の製品化等に関するアンケート調査<sup>2)</sup>」（2010年10月実施、依頼63、回答34件）である。各種情報から綿花栽培者名簿を作成しアンケートを行ったところ、当初の予想に反して全国の方々から綿花栽培の状況や思いについて、多くの回答を得たことが自信となった。二つ目のブレークスルーは、大正紡績(株)近藤健一の多大なる貢献である。近藤は、境港市、観音寺市、広陵町などの自治体や事業者とともに綿花栽培に着手しており、「綿花の花咲翁さん」と言われるまでに活動していた。

これら二つのことがきっかけで、準備委員のモチベーションは高まり、開催へ向けた動きが加速した。

### 「綿花栽培及び国産木綿の製品化等に関するアンケート調査」の結果抜粋

#### 実績

	過去	現在	将来(予定)
種類	・和綿 11件	・和綿 14件	・和綿 8件
	・米綿 10件	・米綿 9件	・米綿 4件
	・その他 各1件 (ペルー綿・アジア綿・陸地綿・洋綿)	・その他 各1件 (アジア綿・陸地綿・洋綿・他、外来種)	・その他 各1件 (アジア綿・陸地綿・洋綿)
	・不明 1件	・不明 1件	・不明 1件
作付面積	・100㎡未満 3件	・100㎡未満 4件	・100㎡未満 2件
	・100～500㎡未満 4件	・100～500㎡未満 3件	・100～500㎡未満 1件
	・500～1,000㎡未満 2件	・500～1,000㎡未満 3件	・500～1,000㎡未満 1件
	・1,000㎡以上 5件	・1,000㎡以上 5件	・1,000㎡以上 1件
	・10,000㎡以上 1件	・10,000㎡以上 2件	・10,000㎡以上 2件
	※回答面積合計 約24,000～34,000㎡	※回答面積合計 約65,000㎡	※回答面積合計 約72,000㎡

#### 時期

・戦後～昭和時代までの間に栽培をスタート	5件
・平成9年～平成19年	11件
・平成20年～平成22年	5件
無回答	13件

#### 動機

1. 和綿在来種の保存と伝承、各産地の綿織物の伝承、技術の継承、復元、復活、産地の活性化等の目的 (10件)
2. 研究、学習の一環として (4件)
3. 雇用創出、休耕地の活用 (4件)
4. その他
・新たな創造(ものづくり)の出来る可能性を見つけたから
・安全安心の国産オーガニックの開発に取り組み、差別化を図る
・日本で栽培された和綿かつオーガニックコットンでTシャツを作ってみたいという夢から

#### 国産綿の製品化

すでに製品化を実施している	7件
製品化を検討している	9件
製品化する考えはない	8件
未回答	8件
その他	2件

#### 製品化での困難(複数回答)

順番	項目	件数
1	綿繰り(種の除去)に苦労している	13
2	製糸(紡績)作業が困難	11
3	綿花栽培をする場所の確保が困難	9
4	事業資金が不足している	8
5	織布等の設備や技術の確保が困難	7
6	販路の確保・開拓が困難	6
7	技術者の確保・養成に苦慮している	5
8	パッケージング等に苦慮している	3
9	デザイン開発に苦慮している	2
10	オリジナル製品の開発に苦慮している	2
11	染色等が困難	1

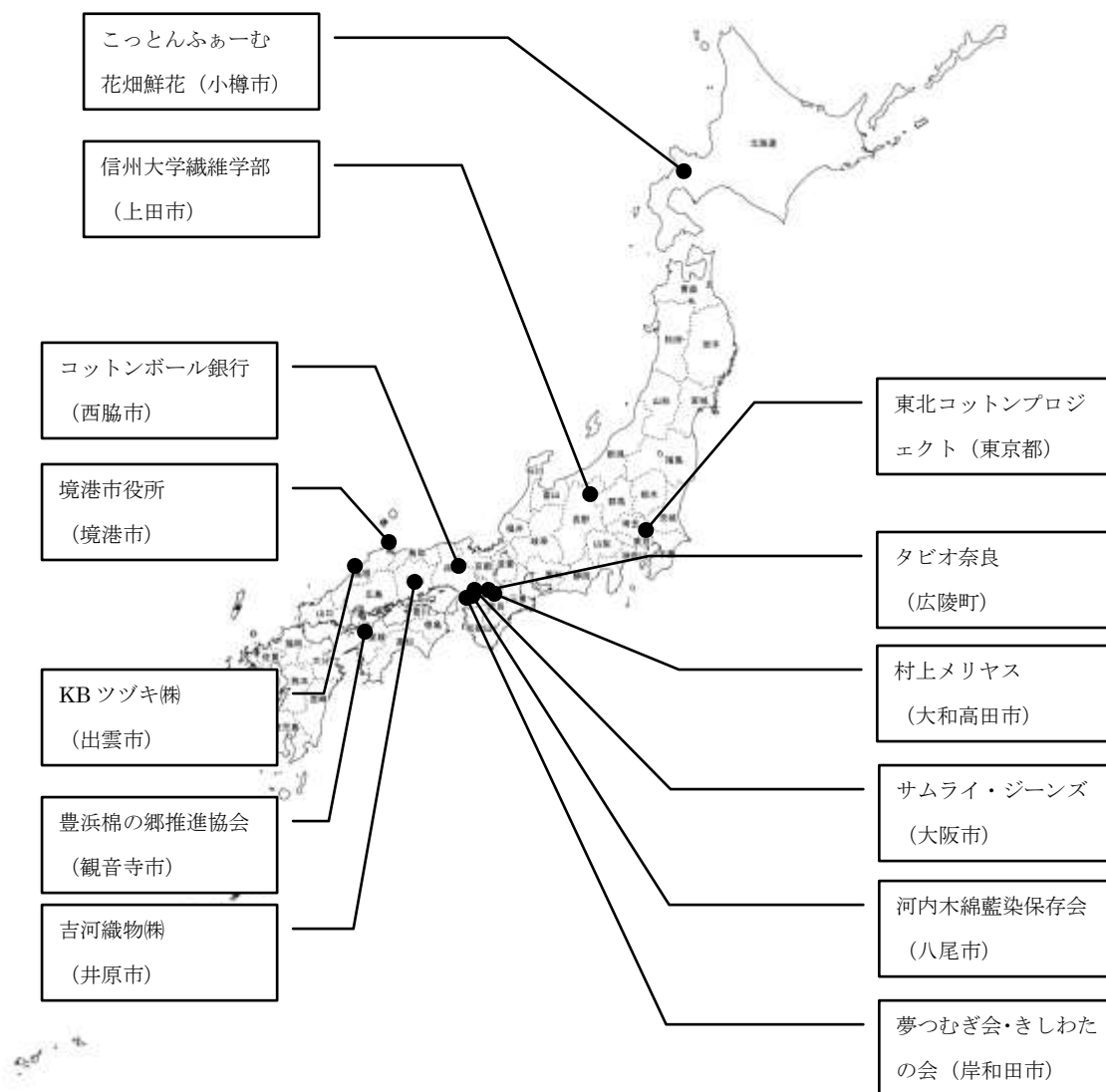
<sup>2)</sup> アンケート調査の詳細結果については、別稿にて。

## 2. 綿花栽培活動拠点マップ

本章では、綿花栽培を行っている事業や企業を一覧化し、まとめたい。まとめにあたっては、今回の「全国コットンサミット in 岸和田」参加団体をはじめ、2010年に実施した「綿花栽培実態アンケート調査」で栽培実績ありとする団体等も加える。さらに、新聞記事や日本綿業振興会のWebサイトなどを参照にしている。

ただ、本稿には紙面の制約から実際に全ての団体等を網羅していない。近年は、紙面掲載した以外でも全国各地で綿花栽培が盛んとなっている。

図表3 綿花栽培団体等のマッピング



出所：「全国コットンサミット in 岸和田」参加企業、各種情報から作成

図表 4 各団体等一覧

	地域	団体名称等	主な栽培場所	主な目的
1	北海道	こっとなふあーむ花畑鮮花 宮崎和枝	小樽市	製品づくり
2	長野県	信州大学繊維学部	上田市	教育 種の保存
3	奈良県	タビオ奈良(株) 越智直正、島田淳志	広陵町	製品づくり 農家支援
4	〃	村上メリヤス 村上恭敏	大和高田市	製品づくり 地域振興
5	大阪府	NPO 法人河内木綿藍染保存会 村西徳子	八尾市	学習 製品づくり
6	〃	夢つむぎ会・きしわたの会 辰巳美績、木村元廣	岸和田市	製品づくり
7	兵庫県	大地のぬくもりコットン ボール銀行	西脇市	製品づくり 地域振興
8	鳥取県	境港市役所	境港市	製品づくり 地域振興
9	香川県	豊浜棉の郷推進協会 加地善一	観音寺市	製品づくり 地域振興
10	岡山県	吉河織物(株)	井原市	製品づくり
11	島根県	KB ツヅキ(株)	出雲市	製品づくり
12	大阪府	サムライ・ジーンズ (有)サムライ	大阪市	製品づくり
13	東京都	東北コットンプロジェクト (株)クルック 事務局	宮城県など	製品づくり

注1) 表中で示した活動は、2011年までに数年間活動実績があり、近年も活動が活発なものを筆者の判断でまとめたものである。

注2) ここでの綿繰機とは、手の動力以外をもって綿を繰る機械に限定する。

出所：各種資料から作成